

こんにちは 大玉村社協です



ふれあいネットワーク

第46号

発行：社会福祉法人大玉村社会福祉協議会

福島県安達郡大玉村玉井字東三合目19 総合福祉センターさくら

電話 0243-68-2100・68-2111 FAX 0243-68-2103

大玉村社会福祉協議会
会長 浅和定 次



平成二十六年度にあたり一言ご
あいさつ申し上げます。
昨年は、八月二十三日に村長職
を退任し社協会長に専念すること
で事業も滞りなく推進することができたのも会員と役職員のご協力
の賜ものと感謝申し上げます。

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から三年が経過しましたが、今なお多くの県民が避難生活を余儀なくされております。大玉村にもようやく復興住宅が建設の運びとなりましたが、応急仮設や民間借り上げ住宅での避難生活が長期化する中で、大玉村で暮らす生活者となる方々へ支援活動を開いています。当協議会といたましても、住民の皆様の福祉ニーズに柔軟に対応していく所存であります。

平成二十六年は大玉社協法人化二周年を迎えることとなりますので、五月底には、三月二十八日に開催された理事会、評議員会において承認されましたので、それに基づいて執行してまいります。

私は福祉活動において最も基本となることは「命を大切にする」ことであると思っております。そのためには、これまで以上にきめ細かい事業展開はもちろることであります。大玉村に住む全ての人を対象に、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現のため、地域福祉活動を推進していきます。

ただそのためには大玉社協だけで取り組んだとしても限界があります。そのような場合に近隣社協や避難元社協その他大玉村内にある様々な個人や団体、企業や行政等と手を結んで、協働で包括的に支援していくような、流行の言葉で言えばソーシャルインクルージョンの体制を取つて、網目の細かい支援をしていきますので、皆様方の益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつと致します。

2ページ 平成26年度事業計画

3ページ 平成26年度予算 平成25年度歳末たすけあい活動実績報告

4ページ 大玉社協新生活支援相談員紹介 大玉村の避難者支援について

平成26年度事業計画

表紙の会長のあいさつにもありましたように、平成26年3月28日に大玉社協理事会、評議員会で平成26年度の事業計画と予算が承認されました。

以下に、平成26年度の事業重点目標と予算を掲載させていただきます。



平成26年度大玉村社会福祉協議会事業重点目標

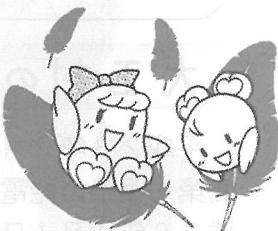
- ① 総合福祉センターさくらの指定管理者制度を引き続き受け、本村福祉行政の一端を担う。生きがいデイサービスや放課後児童クラブなどの受託事業に関しては、利用者の増加はもとより、サービスの質をより高める。
- ② さくらカフェ、放課後児童クラブ、出会いの場づくり事業、サロン活動、生きがいデイサービスなど幅広い年齢層を対象に、多くの村民に参加を呼びかけながら積極的な事業を開展する。
特にサロン活動や、生きがいデイサービス等には積極的な参加を呼びかける。またサロン活動が行われていない地域では、サロンの立ち上げへ向けた働きかけや支援等を行う。
- ③ 介護保険関係事業は、利用者に対してこれまで以上に親身に寄り添い、利用者の生活の質を高められるようにサービスを提供していく。
また、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所ともに引き続き安定経営に努める。訪問介護事業所は周辺事業所に足並みを揃えるような形で、介護報酬を引き上げることも視野に入れながら、一層の基盤安定を図れるような事業展開をしていく。
- ④ 社協だよりや大ボラタイム、ファミサポ通信、各種チラシやポスター等の紙媒体はもちろん、ホームページやブログ等を頻繁に更新してタイムリーな情報を多く発信していくことにより、大玉やそれ以外の地域の方にも本協議会がどのような事業をしているかを積極的にPRしていく。
- ⑤ 法人会員、賛助会員を募り、会員会費を集めることによって、社協全体の財政をこれまで以上に安定させる。
- ⑥ 安達太良応急仮設住宅や大玉村内の民間借上げに対して、避難元の行政や社協との連携を強化して、これまで以上の支援をしていく。
個別支援や集団支援に合わせて、大玉社協サロンの定期開催や、イベントを実施し、大玉村内に避難してきている生活者同士の連携はもちろん、従来の大玉村民とのコミュニケーションをより発展させ、絆を深く強くする。
- ⑦ 一人暮らし高齢者又は高齢者のみ世帯者に対して、25年度までに住宅用火災警報器を一通り設置したのだが、新規に対象となった世帯においても、民生児童委員の皆さんと協力して未設置の家庭に設置を進める。
- ⑧ 地域福祉活動計画の策定に向けた調査や書籍等の収集を行う。
- ⑨ 大玉村社会福祉協議会が法人化20周年を迎えるので、これまでの社会福祉協議会の足取りや現在の事業をまとめた記念誌を発行する。また法人化20周年の記念式典を執り行い、表彰や基調講演等を実施し20周年の節目とする。



平成26年度予算について 26年度資金収支計算書

(単位：千円)

科 目	本年度予算	科 目	本年度予算
【収入】			
会費収入	2,171	人件費支出	82,350
寄付金収入	490	事務費支出	7,922
経常経費補助金収入	16,072	事業費支出	17,875
助成金収入	6,753	貸付事業等支出	506
受託金収入	40,276	共同募金配分金事業費	1,494
事業収入	7,139	助成金支出	68
貸付事業等収入	506	負担金支出	89
共同募金配分金収入	1,494	その他の支出	3,680
介護保険収入	36,212	計	113,984
雑収入	20	当期資金収支差額合計	161
受取利息配当金収入	10		
予備費	3,002		
計	114,145		



平成25年度歳末たすけあい活動実績報告

昨年12月1日から村民の皆様にご協力いただきました歳末たすけあい募金は、すべての行政区からご協力をいただき、1,908戸、763,000円ものご寄付が寄せられました。また老人クラブ連合会様からも101,200円、法人のつどい様からも100,000円のご寄付を頂戴し、利息と合わせて964,418円となりました。皆様からの多くのご協力とご支援を頂戴したこと、厚く御礼申し上げます。

この皆様から頂戴した善意のご寄付は12月のうちに、村内に住む誰もが温かい気持ちで年末及び新年を迎えるように、という願いを込めて、下記のように配分させていただきました。

また配分した残りは、26年度の大玉村内各地で活動しているサロン活動の助成金として、地域の皆様から頂戴したご寄付を、地域の役に立てるようについて配分させていただきますので、御理解の程、よろしくお願ひ致します。

- 歳末たすけあい募金総額 964,418円
- 歳末見舞金配分事業費 770,000円 25年12月実施
- 翌年度配分事業費（サロン活動助成） 194,418円 26年4月より実施



配 分 対 象	件 数	配 分 基 準	配 分 総 額
母子・父子世帯	26世帯	児童一人あたり5,000円	190,000円
一人暮らし	38人	5,000円	190,000円
老々世帯	8世帯	一世帯5,000円	40,000円
介護認定	6人	5,000円	30,000円
介護認定外	6人	5,000円	30,000円
生活困窮	19世帯	一世帯5,000円	95,000円
被災世帯（床上浸水）	3世帯	一世帯10,000円	30,000円
被災世帯（床下浸水・台風等）	13世帯	一世帯5,000円	65,000円
小規模通所作業所（ふれんどりー大玉）	1団体	一団体100,000円	100,000円
合 計			777,000円

大玉社協新生活支援相談員紹介

大玉村内で避難生活を送っている富岡町を始め浪江町、楢葉町、双葉町、飯館村等の方が安心して大玉村内で避難生活を送ることができるよう、大玉村社会福祉協議会では避難者を支援する生活支援相談員を2名配置しております。うち1名を4月1日より新規で採用しましたので紹介させていただきます。

避難生活が長くなると避難者同士の繋がりだけではなく、大玉村の人や活動との繋がりも重要になってきますので、サロンやボランティア活動等にも顔を出しますので、よろしくお願ひします。

4月1日より生活支援相談員になりました武田有里絵です。主な仕事内容は仮設や借り上げの方の支援です。また避難生活が長期化しておりますので、大玉村内のサロン等様々な活動を理解するために積極的に参加して、村民の方達と頭や体の健康のために一緒に体を動かしたりしながら、楽しい時間を過ごしたいと思います。

右も左も分からぬ未熟な私ですが、先輩方を見習って日々成長していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ致します。



武田有里絵

大玉村の避難者支援について

平成23年3月11日の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故から3年が経過しました。平成26年4月1日から田村市都路地区の避難指示が解除されたり、一応一部では復興へ向けての動きを感じられます。しかしそれはまだ一部で、まだいつ帰れるのか、もしくはもう帰れないのか先行きが不透明な方が多数をしめております。

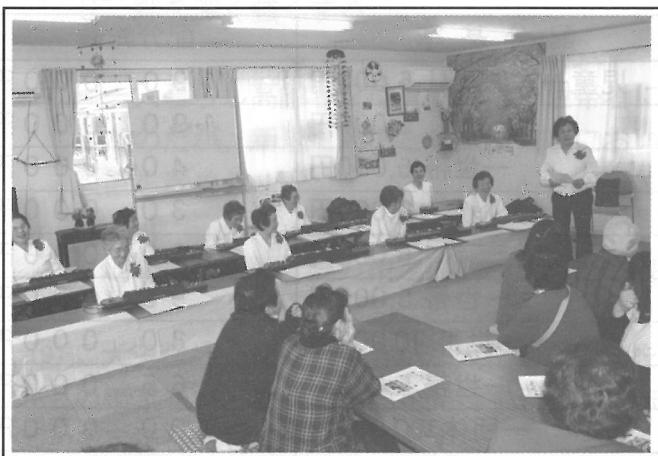
大玉村の場合には安達太良応急仮設住宅が出来て、仮設住宅での生活や民間借上げ住宅での生活がスタートして2年半が経過しました。避難生活が長期化する中で、いつまでも「避難者」としてではなく、大玉村で暮らす「生活者」となるように、必要がある場合にはこれまでよりもより親密に、一人一人に寄り添いながら支援活動を展開していく予定です。

昨年度の事業を振り返りますと、日韓共同募金の助成を受けて、避難者送迎用の車両の整備と借上げ住宅の方等が集まる場の確保ということで、総合福祉センターさくら内にソファを整備しました。それらを活用して昨年の10月から毎月1回「大玉社協サロン」を開設しており、多くの方にお集まりいただいております。またキヤノン株式会社さんや公益財団法人フォレスト・エコ・ライフ財団さんや避難元社協さんの協力を得ながら、一眼レフのカメラを使ったイベントも新緑、紅葉、白銀のそれぞれの時期に実施してきました。

26年度はこれらの事業を継続、さらには発展させ多くの関係機関や大玉村内の様々な社会資源も活用しながら、大玉村に避難してきている皆さんのが安心、安全な生活を送ることはもちろんですが、大玉村で生活していて良かったと思ってもらえるように、これからも引き続き、避難元社協及び近隣社協と連携し、避難者支援業務を推進していきます。



【フラダンス団体からはダンスのプレゼント】



【安達太良応急仮設住宅で行われた大正琴の演奏】